

第 1 回門真市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定推進委員会の報告書

1. 調査の回収率について

- ・回収率が非常に高いが、アンケートの回収率向上に向けて工夫したことは何かあるか。

各調査の回収率は、

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 72.9%（有効回答率 72.5%）
- ・在宅介護実態調査 63.6%（有効回答率 62.7%）であった。

アンケート調査を行う場合、高齢者の回答率は高い傾向があり、今回の調査は 65 歳以上が調査対象であったことが、高い回収率の最も大きな理由と考えられる。

また、今回、調査を実施するにあたり、第 1 回門真市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画審議会からご提案があった、居宅介護支援事業者への協力依頼の周知文書の配布等も回収率の向上に寄与したと考えられる。

その他にも、実際に行った工夫として以下のようなものがあげられる。

- ・調査期間の中盤に、回答者・未回答者を問わず、礼状兼督促はがきを送付した。
- ・調査票は回答時の負担を考慮し、16 ページ以内での構成とした。

2. 介護・介助が必要になった主な原因のうち、「その他」の回答内容について（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書の P 5 ～）

- ・「骨折・転倒」が最も多く、次いで「その他」となっているが、自由記述でどのような理由が多かったか。

自由記載欄の内容については以下の通りです。

自由記載欄内容	件数 (延べ)	自由記載欄内容	件数 (延べ)
筋骨格・結合組織系の疾患	29	精神疾患	2
貧血	1	甲状腺の疾患	1
悪性腫瘍	2	呼吸器系疾患	1
歩行困難	3	コロナワクチンの後遺症	2
循環器系疾患	6	事故や術後の後遺症	3
神経系疾患	3	高齢	3
骨折	4	その他	6
消化器系の疾患	3	無回答	1
目・耳の疾患	6		

3. からだを動かすことについて（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書のP11～）
- ・要支援・要介護状態になる前から介護予防することが重要だと理解したが、該当する運動はいきいき100歳体操なのか。また、いきいき100歳体操への参加状況は調査しているのか。

いきいき100歳体操に関する項目は設けていないが、コミュニティカフェなどの介護予防のための通いの場への参加頻度は調査しており、回答状況は以下の通り。

		母数 (n)	⑤（コミュニティカフェなど）介護予防のための参加頻度							“ 週 1 回 以上 参加 して いる 人 ”
			週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い ない	無 回 答	
全体		1,447	0.7	2.1	2.8	1.0	0.4	65.7	27.3	5.6
性・年齢	男性 前期高齢者	248	0.4	—	0.8	0.4	0.4	△ 78.6	19.4	1.2
	後期高齢者	349	—	1.7	1.4	1.1	0.9	61.9	33.0	3.1
	女性 前期高齢者	319	—	0.6	1.6	—	—	△ 78.1	19.7	2.2
	後期高齢者	531	1.7	4.3	5.5	1.7	0.4	▼ 54.6	31.8	11.5
圏域	門01	267	0.4	2.6	3.4	—	0.4	63.7	29.6	6.4
	門02	306	0.3	2.0	1.6	0.7	0.3	70.3	24.8	3.9
	門03	303	1.0	1.0	2.0	1.7	—	65.0	29.4	4.0
	門04	275	1.5	2.5	3.6	1.5	0.4	65.5	25.1	7.6
	門05	296	0.3	2.7	3.7	1.0	1.0	63.5	27.7	6.7
認定該当 状況	一般高齢者	1,016	0.2	1.0	1.3	0.6	0.3	70.9	25.8	2.5
	要支援 1	237	3.0	2.5	7.6	2.5	0.8	▼ 51.5	32.1	13.1
	要支援 2	194	0.5	7.7	5.2	1.0	0.5	▼ 55.7	29.4	13.4

単位：％

4. 外出を控えている理由について（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書のP22）
- ・その他の自由記載欄に、新型コロナウイルスなどの感染症の影響を理由としている回答はあったか。

その他を選択した回答120件中、82件が新型コロナウイルスなどの感染予防に係る回答であった。自由記載欄の回答内容については以下の通り。

自由記載欄内容	件数 (延べ)	自由記載欄内容	件数 (延べ)
新型コロナウイルスなどの感染予防	82	介護やお世話	2
1人での外出が困難	3	季節的理由(寒いから)	2
病気(骨折や後遺症含む)	7	用事や友人がいない	2
精神的理由(億劫、不安など)	7	その他	4
体力がない	1	特になし・無回答	8
経済的理由	2		

5. 認知症に関する相談窓口の周知状況について

(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書のP87)

- ・認知症に関する相談窓口の認知度が低くなっているが、アンケートの回収率を鑑みると、同じ郵送という手法で相談窓口の周知が効果的ではないか。

相談窓口の周知方法としては、以下の例を検討している。

- ・今後、アンケート調査票に認知症相談窓口についてのコラム等を掲載する。
- ・調査用封筒に案内チラシを同封する。

6. 幸福感と経済状況の相関について

- ・幸福感と経済状況について、回答結果の相関関係はあるのか。

該当箇所のクロス集計結果は以下の通り。

		母数 (n)	経済状況						“ 苦しい方 ”
			大変 苦しい	やや 苦しい	ふ つ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	無 回 答	
全体		1,447	10.4	28.4	50.9	3.9	0.3	6.1	38.8
幸福感	10点	160	6.9	▼ 10.6	△ 66.3	10.0	0.6	5.6	▼ 17.5
	9点	115	2.6	26.1	55.7	7.8	—	7.8	▼ 28.7
	8点	255	5.1	22.0	△ 62.0	5.1	0.4	5.5	▼ 27.1
	7点	227	7.9	31.3	48.0	3.1	0.4	9.3	39.2
	6点	160	8.8	35.6	50.6	3.1	—	1.9	44.4
	5点	329	15.8	31.3	48.3	1.2	—	3.3	47.1
	4点	61	9.8	△ 50.8	▼ 31.1	1.6	—	6.6	△ 60.6
	3点	54	△ 35.2	△ 38.9	▼ 20.4	—	—	5.6	△ 74.1
	2点	17	△ 29.4	△ 41.2	▼ 11.8	—	—	17.6	△ 70.6
	1点	8	△ 50.0	▼ 12.5	▼ 37.5	—	—	—	△ 62.5
	0点	7	14.3	28.6	42.9	—	—	14.3	42.9

単位：％

7. 各種判定結果について

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書にある、リスク判定等はどのように算出しているのか。

各種リスク判定等の算出方法については、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き（令和4年8月版）」（以下、手引き）に基づき算出を行った。算出方法については以下の通り。

●運動器の機能低下リスクの判定方法

以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合は、運動器の機能低下リスクのある高齢者と判定。

設問	選択肢
問 2.1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
問 2.2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
問 2.3 15分位続けて歩いていますか	できない
問 2.4 過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
問 2.5 転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／やや不安である

●転倒リスクの判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、転倒リスクのある高齢者と判定。

設問	選択肢
問 2.4 過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある

●閉じこもりのリスクの判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判定。

設問	選択肢
問 2.6 週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない／週1回

●口腔機能の低下リスクの判定方法

以下の設問に対して3問中2問該当する場合は、口腔機能の低下リスクのある高齢者と判定。

設問	選択肢
問 3.2 【咀嚼機能低下】 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
問 3.3 【嚥下機能低下】お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
問 3.4 【肺炎発症リスク】口の渇きが気になりますか	はい

●栄養改善のリスクの判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、栄養改善リスクのある高齢者と判定。

設問	選択肢
身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ 身長 (m) ²)	18.5 以下

●低栄養のリスクの判定方法

以下の設問に対して 2 問中 2 問該当する場合は、低栄養状態のリスクのある高齢者と判定。

設問	選択肢
身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ 身長 (m) ²)	18.5 以下
問 3.7 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか	はい

●認知機能の低下リスクの判定方法

以下の設問に対して該当する場合は、認知機能の低下がみられる高齢者と判定。

設問	選択肢
問 4.1 物忘れが多いと感じますか	はい

●手段的自立度 (IADL) の判定方法

以下の設問を 5 点満点で判定し、5 点を「高い」、4 点を「やや低い」、3 点以下を「低い」と評価。

設問	選択肢	配点
問 4.4 バスや電車で一人で外出していますか (自家用車でも可)	できるし、している／ できるけどしていない	1 点
問 4.5 自分で食品・日用品の買物をしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1 点
問 4.6 自分で食事の用意をしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1 点
問 4.7 自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1 点
問 4.8 自分で預貯金のおし入れをしていますか	できるし、している／ できるけどしていない	1 点

※手段的自立度 (IADL) とは、『手段的日常生活動作』と訳され、日常生活を送る上で必要な動作のうち、買い物や洗濯、掃除等の家事全般や、金銭管理や服薬管理、外出して乗り物に乗ることなどを指します。

●たすけあいの合計点の算出方法

以下の設問に「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣」「友人」「その他」のいずれかと回答した場合を1点として、4点満点で評価。

設問	配点
問 6.1 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人	1 点
問 6.2 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人	1 点
問 6.3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	1 点
問 6.4 反対に、看病や世話をしてあげる人	1 点

●うつリスクの判定方法

以下の設問に対して2問中いずれか1つでも該当する場合は、うつ傾向の高齢者と判定。

設問	選択肢
問 7.3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
問 7.4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい